

2019年春学期の全時間訓練のための
メッセージアウトライン

主題：
新約正典の中のすばらしいキリスト

メッセージ 15

小羊に従って行く、生きている初穂

聖書：啓14:1-5. マタイ24:45-51

I. 啓示録第14章1節から5節が啓示しているのは、小羊であるキリストと、彼に従って行く、生きている初穂です：

- A. 初穂は生きている勝利者であって、彼らは神の畑で最初に熟した者となります。ですから、彼らは神と小羊への初穂として、収穫の前に刈り取られます：
1. 初穂は天のシオンの山に、第三の天の神の住まいに取り去られて、神とキリストの臨在の中にいるようになります。
 2. 携え上げの意義は、主の臨在の中にもたらされることです。主の臨在の中にもたらされるために、わたしたちは今日、彼の臨在の中にいなければなりません——ルカ21:36. II コリント2:1. ホセア6:2。
 3. 携え上げは、敵を打ち破り、神を満足させるためです。主は、男の子が主の敵と戦うことを必要としていますが、それにもまして、彼の満足のために、初穂をさらに必要としています——啓12:5. 14:1, 4後半。
- B. 聖書は、二つの面の携え上げ、すなわち大患難前の勝利者の携え上げと、大患難の終わりの大多数の信者たちの携え上げを啓示しています——マタイ24:40-41. ルカ21:36. 啓3:10. I テサロニケ4:15-17. 啓12:5. 14:1。
- C. レビ記第23章10節で、携え上げの予告、すなわち畑で熟している作物の予告を見ます——マタイ13:24. 啓14:14-16：
1. 神の作物を刈り取ることは、わたしたちが携え上げと呼んでいるものです。この刈り取ることは、信者たちが地から取り去られることを示します——マタイ13:30, 39後半。
 2. 作物の一部（初穂）は、早く熟して、早く刈り取られます。残りの作物（収穫物）は、後に熟して、後に刈り取られます。
 3. 啓示録第14章によれば、二種類の携え上げ、すなわち初穂の携え上げと、収穫物の携え上げがあります——4後半, 14-16節。
- D. 初穂は、シオンの神の家に携え上げられます。そしてそれは、神への新鮮な享受としてです。これは神の満足のためです——出23:19前半. レビ23:10. 参照、ヨハネ20:17前半。
- E. 初穂は、小羊の名と彼の父の名がその額に記されています。これは、彼らが小羊と御父と一であり、小羊と御父に属していることを示します——啓14:1後半。

F. 初穂は、神の作物の中で最も早く円熟に達したものです——ヘブル5:14—6:1. I コリント2:6. エペソ4:13. ピリピ3:15:

1. 造り変えられるとは、わたしたちの天然の命の上で変化することです。円熟するとは、わたしたちを変化させる神聖な命で満たされることです——ローマ12:2. エペソ3:19後半。
2. 神の表現のために、円熟する必要があります。円熟した命だけが、神のかたちを帯び、彼の権威を執行することができます——創1:26. ローマ5:10, 17, 21。

II. わたしたちが主に従って行き、円熟へと進み、初穂となるために、わたしたちは信仰によって、神と共に歩み、死を逃れ、神と共に歩むことによって神に喜ばれる証しを得なければなりません:

A. 死を逃れ、神と共に歩むことによって神に喜ばれる証しを得る道は、神と共に歩くことです——創5:22-24. ヘブル11:5-6:

1. 神と共に歩むとは、神を踏み越えないこと、出しゃばらないこと、自分の観念や願望にしたがって事を行なわないこと、時代の潮流にしたがって事を行なわないこと、神なしに何も行なわないことです——参照、詩19:12-13. ヨシュア9:14後半. ルカ24:15。
2. 神と共に歩むとは、神をわたしたちの中心またすべてとすること、神にしたがって、神と共に、彼の啓示と導きにしたがって生き、事を行なうこと、彼と共にすべてを行なうことです——ローマ8:4, 13-14. ガラテヤ2:2前半. II コリント5:14-15。
3. 神と共に歩むとは、わたしたちが何であるかにしたがって、わたしたちにできることにしたがって生きるのではなく、キリストご自身である朽ちない命によって生きることを意味します——4, 9節。
4. 神と共に歩むとは、神と習慣的に交わりを持つこと、絶えず主に触れていること、絶えず彼の注入の下にあることです——I ヨハネ1:3. ピリピ4:6. II コリント3:16, 18。
5. 神と共に歩むとは、わたしたちの霊を絶えず活用して、祝福された三一の神を享受することです——ユダ14, 19-21。
6. 神と共に歩むことが暗示しているのは、わたしたちの自己を否み、そのすべてを否むことであり、それによって、わたしたちが彼と一になることです。それが暗示しているのは、わたしたちが自分自身を彼にささげること、彼に屈すること、彼にリードしていただくことです——マタイ16:24-25. II コリント2:13-14。

B. 神と共に歩むとは、信仰によって歩むことです——5:7. ヘブル11:5-6:

1. 信仰が意味するのは、「神はある」ことをわたしたちが信じることです——1-2, 6節. II コリント4:13, 18:
 - a. 信仰がなくては、神に喜ばれ、神を幸いにすることはできません——ヘブル11:6前半。
 - b. 「神はある」ことを信じることは、彼がわたしたちのすべてであって、わたしたちは無であるのを信じることです——ヨハネ8:58. 伝1:2。
 - c. 「神はある」ことを信じることは、わたしたちがないことを暗示します。すべ

てのことで、彼が唯一の方、唯一無二の方でなければならず、すべてのことで、わたしたちは無でなければなりません——創5:24. ヘブル11:5。

d. 「神はある」ことを信じることは、わたしたちの自己を否むことです。全宇宙で彼はあり、わたしたちはみな無です——ルカ9:23。

e. わたしは何であってもなりません。わたしは存在すべきではありません。彼だけが存在すべきです——「生きているのはもはやわたしではありません。キリスト……です」——ガラテヤ2:20。

f. タルソのサウロが回心した時、主は彼に、「わたしは……イエスである」と告げました——使徒9:5:

(1) 主はこう言っていました、「わたしは大いなる『わたしはある』である。わたしは存在する者である。あなたはわたしがいること、あなたはいないことを信じなければならない」。

(2) 最終的に、サウロは終わらされ、パウロが登場しました——13:9。

g. これが信仰です。「ああ、何という喜び。何も持たず、無であり、栄光の中の生けるキリスト以外何も見ず、地上で彼の権益のほか何も注意しないことの喜び」——J・N・ダービー。

2. 信仰が意味するのは、神が彼を熱心に尋ね求める者たちに報いてくださる方であることを、わたしたちが信じるということです——ヘブル11:6. 創15:1. ピリピ3:8, 14:

a. エノクの褒賞は最高の程度の命、すなわち死から免れることでした——ヘブル11:5前半. IIコリント5:4. ローマ8:6, 10-11. 5:17。

b. 主は報いる方であり、わたしたちは彼を尋ね求める者となる必要があります——詩27:4, 8. 42:1-2. 43:4. 73:25. 119:2, 10。

C. 携え上げられた最初の人であるエノクは、生きている間に携え上げられるすべての勝利者の代表である——マタイ24:37-51. 啓14:1. ルカ21:34-36:

1. わたしたちが携え上げられることは、わたしたちが神と共に歩むことによって、神聖な命において円熟することにかかっています——ヘブル6:1前半。

2. エノクは三世紀にわたって日夜、絶えず神と共に上に向かって歩み、毎日ますます神に近づき、ますます神と一になり、ついに「神が彼を取られたので、彼はいなくなった」——創5:24. 参照、雅8:5前半。

III. わたしたちが主に従って行き、円熟へと進み、初穂となるために、わたしたちは主の委託において忠信に奉仕し、神を食物として神の家族に与えなければなりません。それはわたしたちが来たるべき王国において、わたしたちの褒賞としてのキリストを獲得するためです——マタイ24:45-51:

A. 神は一つの家庭と、家庭の行政、エコノミーを持っており、ご自身を食物として彼の家族に分与し、ご自身を表現させます——Iテモテ1:4. 3:15. エペソ2:19。

B. 神は、忠信で思慮深い奴隷を彼の家族の上に立てて、家庭の管理者、執事、供給の経路とならせ、定められた時に彼の民に食物を与えさせました——マタイ24:45.

Iコリント9:17. エペソ3:2. Iコリント4:1. Iペテロ4:10. ピリピ1:25。

C. 「食物を与える」とは、召会の中で、神の言葉とキリストを命の供給として、信者

たちに供給することを指しています。命を与える霊としてのキリストは、わたしたちの食物であり、命の言葉の中に具体化され、実際化されています——ヨハネ6:57, 63, 68. 使徒5:20 :

1. わたしたちが主をわたしたちの霊的食物として享受して、他の人たちを養うことができるようになるためには、彼の言葉を祈り、黙想しなければなりません。また、注意深く考慮することを通して、それを味わい、享受しなければなりません——エペソ6:17-18. 詩119:15. エゼキエル3:1-4。
 2. わたしたちは祈りと言葉の務めに専心しなければなりません——使徒6:4. II コリント3:6, 8. ヨハネ7:37-39. 参照、ヘブル7:25. 8:2。
- D. わたしたちの心の中で、わたしたちの主人は来るのが遅れると言うことは、現在の邪悪な時代を愛して、主の出現を愛さないことです——マタイ24:48. II テモテ4:8, 10. 参照、使徒26:16 :
1. わたしたちはむさぼりに警戒して、自分のために宝を蓄えるのではなく、神に対して富まなければなりません——ルカ12:15-20. II コリント6:10. エペソ3:8。
 2. 「ロトの妻を思い出さない」は、この世を愛している信者たちに対する厳粛な警告です——ルカ17:31-32. 参照、ローマ1:21, 25。
 3. わたしたちは目を覚まして、祈り求めなければなりません。そうすれば、主の来臨の日がわなのように、突然わたしたちに襲いかかることはないでしょう——ルカ21:34-36. 参照、マタイ2:3。
- E. わたしたちの奴隷仲間を打ちたたくことは、信者仲間を虐待することです——24:4 9. 18:3-7. 使徒9:4 :
1. わたしたちは、わたしたちの奴隷仲間を裁いたり、罪定めしてはならず、彼らに対して親切であり、情け深くあり、彼らを赦さなければなりません。それはちょうど、神がキリストにあってわたしたちを赦してくださったようにです——ルカ6:37. エペソ4:31-32。
 2. わたしたちは、わたしたちの兄弟たちをののしったり、批判してはならず、彼らを自分自身よりすぐれていると思わなければなりません——I コリント6:10. ピリピ2:3, 29。
 3. わたしたちは、わたしたちの信者仲間の上に権力を振るってはならず、奴隷として彼らに仕え、命を与える霊としての復活したキリストをもって彼らを養わなければなりません——I ペテロ5:3. マタイ20:25-28. 参照、民17:8。
- F. 酔っ払いどもと食べたり飲んだりすることは、この世的な事柄で酔っ払っているこの世の人とつきあうことです——マタイ24:49. 参照、エペソ5:18 :
1. 信者たちの神聖な性質と聖なる立場のゆえに、彼らは未信者と共にくびきを負うべきではありません。これは、結婚や事業だけでなく、信者と未信者との間のあらゆる親密な関係に適用されるべきです——II コリント6:14. I コリント15:33. 参照、箴13:20。
 2. わたしたちは若い時の欲から逃れて、純粋な心で主を呼び求める人たちと共に、すべてを含むキリストを追い求めなければなりません——II テモテ2:22。